令和７年度 第１回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和７年５月２７日（火）11：00～12：25
場　　所：Zoom を利用した Web 会議
出　　席：７名
井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）、伊藤ゆり（大阪医科薬科大学医療統計学研究室特別職務担当教員教授）、伊佐奈々（琉球大学病院がんセンター診療情報管理士）、埴岡健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授）、東尚弘（東京大学大学院公衆衛生学分野教授）、山里紘美（沖縄県保健医療介護部健康長寿課主任技師）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター長）
欠　　席：１名
平田哲生（琉球大学病院診療情報管理センター長）
陪　　席：１名
西佐和子（琉球大学病院がんセンター事務）

【報告事項】
１．令和６年度 第９回ベンチマーク部会議事要旨について
増田部会長より、資料１に基づき、ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

２．今年度の委員について
増田部会長より、資料２に基づき、今年度の部会委員についての報告があった。

３．第３回医療者調査の回答状況と今後の対応について
増田部会長より、資料３に基づき、第３回医療者調査の回答状況についての報告があった。

４．その他
特になし。

【協議事項】
１．「がん診療を行う医療施設一覧」掲載要件見直し事業の進捗状況について
増田部会長より、資料４に基づき、「がん診療を行う医療施設一覧」掲載要件見直し事業の進捗状況についての報告があった。続いて、埴岡委員より、院内がん登録データをもとに作成した資料（病院マップ）が共有された。

２．第４次沖縄県がん対策推進計画(当協議会版)の進捗状況について

時間の都合上、次回に持ち越しになった。

３．在宅分野の医療者調査アンケートについて

増田部会長より、資料６に基づき、在宅分野の医療者調査アンケートについて、概要および調査票について説明があった。

埴岡委員より、現場の見解として、重要だと思われる要素がただ列挙されている印象があり、ロジックモデルに基づいて、個別施策と初期アウトカムの関係をより高めるための具体的な手法がうまく伝わってこないとの意見があった。具体的には、問 13「地域の在宅医療・介護の専門職に対する教育・研修に充分関わっていますか？」が、初期アウトカムの質向上にどのように寄与するのか。また問 12「地域における医療・介護の専門職種、行政、団体等と協働する機会が多くありますか？」では、どのように個別施策の効果を高めるのか、その繋がりが明確ではない。また、「あなたが担当した患者さんは、最終的に希望した場所で亡くなりましたか」という指標が、「望んだ場所で過ごしたがん患者の割合を増加させる」施策の初期アウトカムを高めるために、特筆すべきこととして、質問 12 があると効果的になると現場は考えているのか。これらの関連性の確認が必要であるとのことだった。

伊藤委員より、遺族調査と同様の項目があるのであれば、全国調査との比較も視野に入れた質問紙の設計をされることが望ましいと提案があった。続いて、問９においては、包括的アプローチが大事なのか。身体的側面はできているが、心理及び社会的側面は欠けている場合、その問題への配慮が必要ではないかとの意見があった。

東委員より、確かに包括的アプローチの視点でみると、例えば、問 11 では「家族も支援の対象として」位置づけているが、その前に、患者を支援しているのかという質問が存在せず、それが当然とされているところに違和感がある。包括的なアプローチの理解が異なる場合には、明確に分解する必要があるとのことだった。また、患者への質問があるのであれば、医療者へ調査する必要はないが、今回の調査対象がさほど多くはないので、どうしてもそれがみたいのであれば、医療者への質問も含めてよいのではないかとのことだった。

４．「痛みのスクリーニング及びモニタリング」に関するアンケート調査について

時間の都合上、次回に持ち越しになった。

５．その他

次回は、２か月後に開催を予定している。